



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2026 July to September vol. 231



特集展示

辰馬考古資料館の名品

— 鉄斎との交友、
考古学に寄せるまなざし —

アンケージラウンド
特集展示

埋納

— 地下に願いを —

〔予告〕 特別展

源氏物語

王朝のかがやき



京都国立博物館

だより

二〇二六年

七・八・九月号

【特集展示】

辰馬考古資料館の名品

鉄斎との交友、考古学に寄せるまなざし

7月14日(火)～9月6日(日)

※会期中、一部の作品は展示替を行います。
【平成知新館3F】1・2・3F

辰馬悦蔵（一八九二～一九八〇）は灘の銘酒、白鷹の蔵元として名をはせた実業家です。いっぽうで、京都帝国大学で考古学を修めた考古学者でもありました。若くして家業を継いだ後も研究を続け、その深い見識をもって考古資料の蒐集・保全に力を尽くしました。彼が生涯をかけて蒐集した考古資料を公開・保管する施設が昭和五十一年（一九七六）開館の辰馬考古資料館です。展示施設は現在建替え中であり、その間、京都国立博物館で所蔵品をお預かりしています。この機会に京都国立博物館では、辰馬考古資料館所蔵の名品を一堂に集めた特集展示をおこないます。

辰馬考古資料館といえば、やはり銅鐸！

銅鐸は朝鮮半島の小銅鐸を祖型とし、日本に伝わったのちは弥生時代の農耕祭祀と結びついて次第に大型化していきました。所蔵の銅鐸は、重要文化財十四件を含めて、計六十二件あり、質量ともに日本屈指のコレクションです。本展では、これらをすべて展示します。これは辰馬考古資料館の歴史のなかでも初の試みとなります。

本展では、最古段階から最終段階までの通史的な銅鐸の変遷をみることでできます。併せて、銅鐸の祖型となった小銅鐸を含む大韓民国入室遺跡の一括資料も紹介します。また、資料館所蔵の銅鐸は、大半が近代以前に発見されたという特徴があります。そのなかのいくつかは江戸時代に花入れとして改変されています。現代に生きる我々の感覚では思いもよらぬ活用方法ですが、近代以前の人々が、偶然見つけた銅鐸に新たな価値を見出し、創意工夫を加えた興味深い事例です。

縄文時代から古代まで、バラエティーに富む考古資料

ほかにも、縄文時代の土器や土偶、古墳時代の青銅鏡、古代の鑄造物など、さまざまな考古資料を展示します。縄文時代は茨城県福田貝塚や椎塚貝塚、千葉県余山貝塚、青森県の亀ヶ岡遺跡や十腰内遺跡など、学史的にも著名な遺跡の資料が多く含まれます。これらは人面装飾付注口土器や土偶、土面、貝や動物をかたどった土製品など、特殊な器物が多いことが特徴です。主に儀礼に関わると考えられ、縄文時代後期以降、縄文文化の発展とともに祭祀が複雑化したことを示します。

鉄斎の交友を基礎とする絵画コレクション

さらに、本展は考古資料だけではなく、辰馬考古資料館のもう一つの特色は、富岡鉄斎（一八三六～一九二四）を軸とする絵画作品を数多く有することです。最後の文人画家ともいわれる富岡鉄斎との交友は、悦蔵の祖父、悦叟（一八三五～一九二〇）から始まります。二人の友情は主に手紙のやり取りを通して育まれました。大正三年（一九一四）、鉄斎七十九歳の折には、悦叟の隠居宅に約半月滞在し、「阿倍仲麻呂明州望月・円通大師吳門隱栖図」を制作しています。本展では制作年代が分かる鉄斎の優品を核に、江戸時代中期の博物学者、木村兼葎堂（一七三六～一八〇二）の著作物なども併せて展示し、近世から明治時代にかけての文人文化の一端を紹介します。

このように、本展は数千年前の考古資料から大正時代の絵画作品まで時空を超えて盛りだくさんです。バラエティーに富んだコレクションを通して、辰馬悦蔵・悦叟の学問や美術に対する広く深い眼差しを感じていただければ幸いです。

（石田由紀子）

鉄斎が理想とした文人世界



王石谷草堂図 富岡鉄斎筆

銅鐸のルーツここにあり



入室里遺跡出土青銅器 韓国・慶州市出土

洗練された縄文の美



重要文化財 注口土器 茨城県稲敷市椎塚貝塚出土

あどけない表情に釘付け



土面 岩手県一関市大原出土

ユニークな造形に注目



重要文化財 ミミズク土偶 千葉県銚子市余山貝塚出土

よく見ると船や人、シカ、カエルがいます。ぜひ展示室で探してみてください



銅鐸を大胆にリメイク 弥生時代×江戸時代のコラボ



花入れに転用された銅鐸 装束禪文銅鐸 出土地不詳

重要文化財 流水文銅鐸 福井県坂井市井向出土

最後の文人画家 富岡鉄斎

富岡鉄斎（一八三六～一九二四）は京都に生まれ、文人の理想である「万卷の書を読み万里の路を行く」ことを実践した文人画家です。東洋の画法を研究し、中国や日本の歴史、故事、逸話などを主題に、深い意味を含んだ独創的な作品を多く生み出しました。辰馬悦蔵との交流は意外と遅く、二人が七十代になってからです。画業の鉄斎、酒造りの悦叟と、ともに理想を求めるものとして親交を深めました。



富岡鉄斎(左)と辰馬悦叟(右)

兼葎堂の博識と幅広い人脈の 中で作られた貝の図鑑



奇貝圖譜 木村兼葎堂筆

辰馬家に滞在し完成させた、鉄斎 79 歳の大作



重要文化財 阿倍仲麻呂明州望月・円通大師吳門隱栖図 富岡鉄斎筆（8月11日～9月6日展示）

※いずれも辰馬考古資料館所蔵

【特集展示】

アンダーグラウンド

埋納

— 地下に願いを —

7月14日(火)～9月6日(日)
【平成知新館1F-3・4】

タイムカプセルを埋めたことはありませんか。大切な手紙や思い出の品を土の中に埋めて「未来」へ届けるタイムカプセルは、実は現代だけのものではありません。大切な品々を地中に埋める行為は、はるか昔から繰り返して行われてきました。本展では、願いを託して地中に「埋納」された品々を展示し、弥生時代から近世に至る日本の埋納史をたどりま。

人々が地中に埋納する営みは、自然や土地への祈りと深く結びついた行為です。弥生時代に銅鐸が埋納された背景には、ムラの存続や安寧への願いが込められていたと考えられます。やがて、建物を建てる時に柱穴に土器を埋納する例が見られるようになります。埋納によって暮らしたの基礎となる場所の安全を祈ったようです。仏教が広まると、寺院の塔心礎に舍利容器や荘厳具が埋納されるようになり、埋納は建物に特別な意味や力を与える行為としても位置づけられました。

奈良時代には寺院建が増加し、土地の神々を鎮める儀礼が整えられていきます。興福寺中金堂の鎮壇具にみられるように、様々な器物が基壇の下に埋納されました。その一方、子どもの成長を願う抱衣壺や、道路の敷設に際して銭貨を埋めるといった、日々の暮らしに根ざした埋納も行われました。

平安時代になると、平安宮では内裏承明門の建設に際して天台密教に基づく儀礼が行われ、都の境界では京内の守護を願う祭祀が営まれました。同時に、個人の願いに基づく埋納も盛んになります。なかでも大きな広がりを見せたのが、經典を埋納する経塚の造営です。藤原道長による金峯山への經典埋納は、後世に大きな影響を与えました。経塚には、紙の經典を青銅の経筒に納める他に、朽ちにくい素材を用いた瓦経や銅板経など、多様なかたちの經典が埋納されました。経塚は京周辺から各地へ広がり、山岳寺院や神社の境内、古墳の上など、さまざまな場所に築かれました。

中世以降、経塚の形式は泥塔経や礫石経などに多様化しながら、埋納行為は続いていきます。江戸時代には、鎮物の埋納が広く行われ、墨書土器に小石を納めて埋める民間習俗も見られます。一方で、古代にみられた抱衣壺や密教法具の埋納も、かたちを変えながら受け継がれていきました。

本展では、多様な埋納品を展示し、人々の祈りのかたちをご紹介します。埋納品は単なる出土遺物ではなく、はるか昔の人々が未来へと託した願いそのものなのです。みなさんは、どんな願いを地中に残したいですか。

(大谷 弦・緑納 民之)

二二〇枚の銅板にお経を刻みました

瓦に祈りの姿を刻みました



重要文化財 仁和寺境内出土品のうち 銅板経 京都・仁和寺



線刻瓦(僧形) 京都市西京区榎原盆山出土 京都国立博物館



重要文化財 弥勒如来坐像
長崎県杵岐市鉢形鎮経塚出土 奈良国立博物館
(画像提供: 奈良国立博物館)

石仏の中に法華経を納めて埋めました

金・銀・銅の箱に舍利を納めて埋めました



国宝 崇福寺塔心礎納置品 滋賀県大津市崇福寺跡出土 滋賀・近江神宮

お寺の繁栄を願って宝物を埋めました



国宝 興福寺中金堂鎮壇具のうち ガラス玉 東京国立博物館

仏像を筒に納めて埋めました



重要文化財 花背別所経塚出土品のうち 銅筒と毘沙門天立像 文化庁

一字一字に願いを込めて埋めました



泥塔経 鳥取県東伯郡琴浦町智積寺経塚出土 奈良国立博物館
(画像提供: 奈良国立博物館)

昔ながらの作法で
工事の無事を願いました



京都市指定文化財 京都市上京区公家町遺跡(柳原家)出土品のうち 賢瓶 京都市

平成知新館 名品ギャラリー

3F-1-2

【特集展示】

辰馬考古資料館の名品

— 鉄斎との交友、

考古学に寄せるまなざし —

7月14日(火)～9月6日(日)

2F-1-2

【特集展示】

辰馬考古資料館の名品

— 鉄斎との交友、

考古学に寄せるまなざし —

7月14日(火)～9月6日(日)

2F-1-3 中世絵画

【明兆と室町水墨画Ⅰ】

7月14日(火)～8月9日(日)

【明兆と室町水墨画Ⅱ】

8月11日(火・祝)～9月6日(日)

2F-1-4 近世絵画

【近代の屏風】

— 白寿斎コレクションから —

7月14日(火)～9月6日(日)

2F-1-5 中国絵画

【中国近代の油画と国画】

— 劉海粟・徐悲鴻・王濟遠 —

7月14日(火)～9月6日(日)

1F-1 彫刻

【鎌倉時代の彫刻】

【仏像のなかの世界】

— 納入品と造像銘記 —

7月14日(火)～9月6日(日)

1F-2

【中国の陶俑】

— 土に託した不滅の生 —

7月14日(火)～9月6日(日)

1F-3・4

【特集展示】

アンダーグラウンド
埋納 — 地下に願いを —

7月14日(火)～9月6日(日)

1F-5 金工

【地下から地上へ】

— 受け継がれた祈り —

7月14日(火)～9月6日(日)

1F-6 漆工

【聖なる漆器 — 天に祈りを —】

7月14日(火)～9月6日(日)

《予告》
【特別展】

源氏物語 王朝のかがやき

10月6日(火)～11月29日(日)

【主な展示室】

前期展示：10月6日(火)～11月1日(日)

後期展示：11月3日(火祝)～11月29日(日)

※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替えを行います。

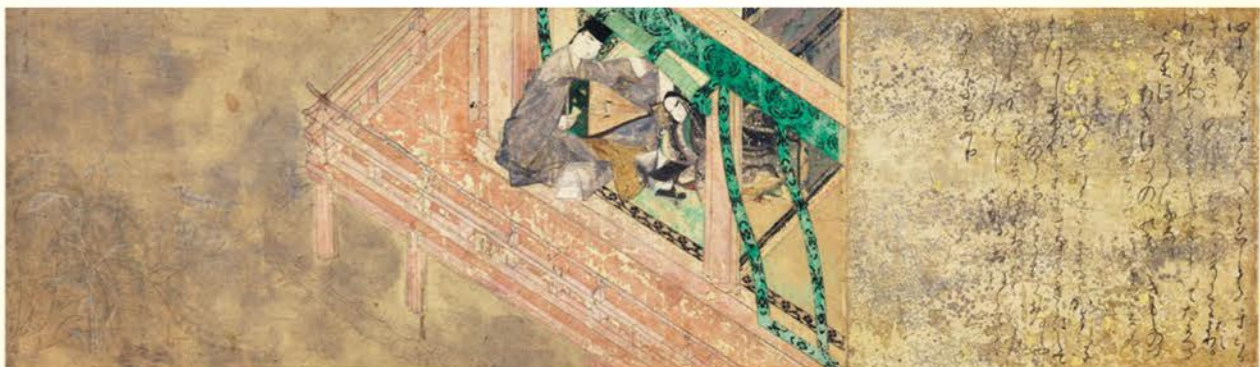
【平成知新館】

平安時代に紫式部によって著された、日本文学史を代表する王朝物語「源氏物語」。雅な宮廷を舞台に繰り広げられる光源氏や個性豊かな女性たちの恋愛模様、人生模様は、後世読み継がれる中でさまざまな文化や美術を生み出しました。

本展では、源氏物語の場面やモチーフを表した美しい絵画、工芸品を一堂に集め、後世につくられた写本や注釈類、さらに芸能への広がりも紹介することによって、わが国の文化に豊かなかがやきを与え続けたこの名作の魅力を再発見します。国宝「源氏物語絵巻」や「初音の調度」をはじめ、藤原定家が校訂した重要な写本や、海外からの里帰り作品など、過去最大規模、約二五〇件(予定、東京国立博物館との巡回含む)の多彩な文化財をご覧ください。

京都国立博物館で「源氏物語」をテーマにした特別展を開催するのは、昭和五十年(一九七五)の「源氏物語の美術」展以来半世紀ぶりとなります。どうぞご期待ください。

(井並林太郎)



国宝 源氏物語絵巻 宿木三 平安時代 12世紀 愛知・徳川美術館(11月17日～29日展示) © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



重要文化財 源氏物語画帖 若紫 土佐光吉・長次郎筆 安土桃山～江戸時代 17世紀 京都国立博物館(通期展示、帖替あり<この場合は前期展示>)



国宝 初音の調度のうち 胡蝶時絵扶箱 幸阿弥長重作 江戸時代 寛永16年(1639) 愛知・徳川美術館(通期展示) © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



小袖 浅葱縮緬地御所車殿舎簾模様 江戸時代 19世紀 京都国立博物館(後期展示)

よみもの

美術品輸送の今昔

学芸員として最も頻繁に携わる仕事のひとつが、文化財の点検と梱包、輸送に関する色々。大きな展覧会のためごと、外に拝借にゆき、逆に京博に借用に來られればお貸出の点検に立ち会う。修理やご寄託関係の出入り、一時的な保管といった展示以外の業務でも、梱包と輸送が必要な場面は多い。目下、美術工芸品の輸送については専門会社があり、驚くべき梱包ノウハウを持った経験豊富なエキスパートが、専用の資機材を準備して手際よく取りかかってくれる。一見して移動が難しそうなお品も、彼らと一緒に下見や事前確認をしっかり行い、段取りや資機材に工夫を重ね、予算を工面できれば(これが難しいが)安全に動かせることがある。

しかし振り返るに、現代のような資機材や輸送車がない昔、華奢な美術工芸品を遠方まで運ぶのは何とも大変だったはずだ。研究に関わって古い品々についての資料や記録に目を通すと、このお像、この軸はかつてどこそこ(ここにあり、その後移されて…)といったことが多々書かれている。どうやって壊さずに運びきたのか。移動の記述は極めてあっさりしているが、その裏の苦勞・苦心はいかなるものか。

江戸時代の初め、徳川家康に重用されて京、駿府、江戸で幕府のブレーンとして活躍した著名な禅僧、以心崇伝(一五六九～一六三三)の日記「本光国師日記」に、こんな内容の書状が書き留められている。寛永四年(一六二七)、以心が京の本拠である南禅寺金地院を大改築すべく、費用捻出のために秘蔵の墨蹟二幅を富裕な大名家に譲った際のこと。軸の売却を仕切ったのは、京で以心の留守を預かる弟子の最岳元良で、懇意にしていた唐津の大名、寺沢広高が受け渡しを仲介したらしい。最岳は「箱に入れ、綿を詰めて封をせよ。その上で上家(雨露を避けるための外覆い容器?)に入れ、洪紙(柿渋を塗って防水加工した紙)で外をしっかり包み、さらに畳表(でくるんで、雨の際も川を渡る際も差しさわり無いようにせよ。輸送に当たっては、普段の出入りの飛脚ではなく、道中の用心として広高公の使者がいらっしやるので、彼とよく話し合わせ、中身や梱包具合をしっかり確認してもらった上でお渡しするように。)

と、遠方(恐らく江戸)までの輸送と点検について細かに指示を出した。重要な財産の輸送と引き渡しである。価値を損ねないよう緩衝材を入れて防水に気を遣い、防犯も考慮する。最終、両者で事前に状況確認を行う基本は現代と変わらない。

金地院の例はプライベートでなされた一点ものの小規模な美術品輸送だが、江戸時代に大都市を中心に行われた社寺の出開帳(でがいはら)のそれは、現代の大きな特別展で行う輸送をより彷彿とさせる。当時の資料には、霊像や宝物を輸送するための資材やコストのこともみえる。輸送や展観にかかる費用は非常に高額だったが、経理を疎かにしなければ、拝観料収入に富豪からの莫大な協賛金(寄付金)獲得、各種の関連イベントやショップその他によって概ね賄うことが出来、地域の社寺の特別な臨時収入となった。信仰の熱狂に支えられるという側面から、霊像・霊宝の輸送そのものがイベント化しやすいのが特徴で、輸送時のセキュリティを第一に考える現代とは思考が違うのが面白い。輸送のイベント化は宣伝や協賛者向け対応の一つのあり方でもあり、ものと縁を結ぼうとする無償の奉仕者を増やすことは、道中の経費の若干の節減にもなっただろう。不動明王の霊場として江戸で特に人気の高かった成田山新勝寺(千葉県成田市)には、当時霊像の輸送に用いた漆塗りの密閉型の輿(こし)が残る。現代の美術品輸送専用トラック(通称、美専車)の一祖先といえようか。

とかく古い時代のこと、運搬方法や資機材自体は違うので、実際には輸送品を多少傷つけてしまうこともあったかもしれない。ただし、輸送時の安全確保や経費に対する目線の中に、現代の我々と共通するものを感じるのも確かである。ちなみに現代において展覧会をするとき、私たち学芸の人間はしばしば「〇〇、初出品!」をアピールしたくなるのだが、同時に、ひよっとすると実は何百年か昔、我々の先祖たちが運んで展覧しようとしたことがあるかもしれないという不安にも駆られる。輸送と展示の歴史が案外古いからである。

京都国立博物館主任研究員 森 道彦

【「ミュージアムパートナー」】 ※令和8年6月末現在 京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

【「キャンパスメンバーズ」】 ※令和8年6月末現在 「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として、文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および教職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会等さまざまな特典を提供しています。

- 学校法人 瓜生山学園/追手門学院大学
- 国立大学法人 大阪大学/大阪大谷大学
- 大谷大学/大手前大学/学校法人 関西大学
- 学校法人 関西学院
- 国立大学法人 京都大学/京都華頂大学
- 国立大学法人 京都工芸繊維大学
- 学校法人 京都産業大学
- 学校法人 京都女子学園/京都市立芸術大学
- 京都精華大学/京都先端科学大学
- 京都府立大学/近畿大学
- 国立大学法人 神戸大学/四天王寺大学
- 就実大学/成安造形大学
- 国立大学法人 総合研究大学院大学
- 学校法人 大覚寺学園/帝塚山大学
- 学校法人 同志社/奈良大学
- 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学
- 学校法人 二本松学院/花園大学/佛教大学
- 平安女学院大学/学校法人 森ノ宮医療学園
- 立命館大学/龍谷大学

講座・イベント

《土曜講座》

- 7月18日(土)「昭和100年記念講座 昭和・平成・令和 京都国立博物館のあゆみ」
京都国立博物館館長 松本伸之
- 8月22日(土)「辰馬考古資料館収蔵品の来し方行く末」
公益財団法人辰馬考古資料館学芸員 青木政幸 氏
- 8月29日(土)「今日は京博で辰馬考古資料館の銅鐸を見よう」
京都国立博物館名誉館員 難波洋三 氏
- 9月 5日(土)「埋納(アンダーグラウンド)へようこそ」
京都国立博物館 アソシエイトフェロー 大谷 弦
京都国立博物館 アソシエイトフェロー 線納民之

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。

※当日9時30分より、平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

《明治古都館・技術資料参考館 特別公開》

開館当初の姿を今に伝える明治古都館(重要文化財)と、東の庭にたたずむ技術資料参考館(登録有形文化財)の内部を特別に公開します。
この機会にぜひご来館ください。

期間:7月11日(土)・12日(日)【庭園のみ開館期間】

7月14日(火)～20日(月・祝)【名品ギャラリー開催期間】

場所:明治古都館および技術資料参考館

これからの展覧会

- ◆特別展 源氏物語 王朝のかがやき
10月6日(火)～11月29日(日)
- ◆新春特集展示 ひつじづくし—干支を愛でる—
12月22日(火)～令和9年(2027)2月7日(日)
- ◆特集展示 茶の湯の道具と次第しだい
12月22日(火)～令和9年(2027)3月22日(月・休)
- ◆特集展示 雛まつりと人形
令和9年(2027)2月13日(土)～3月22日(月・休)

◆京都国立博物館の庭園を紹介する無料アプリケーション 「京博庭園ナビ」◆

「京博庭園ナビ」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、京都国立博物館の庭園を楽しんでいただける無料のアプリケーションです。屋外展示や建物など、特定のスポットにカメラをかざすと、解説やARが表示されます。ご来館の際にぜひご利用ください。

利用可能時間:9:30～16:30

料金:無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

※館内ではフリーWi-Fiをご利用いただけます。

※パソコンでは正しく動作しません。

>詳しい利用方法はこちら

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/museum/garden-navi/>

公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X・Instagram

@KyotoNatMuseum

公式キャラクター・トラりんサイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>



◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間:6月16日(火)～7月12日(日)

9月8日(火)～10月4日(日)

※上記期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<6月16日～10月4日>

9:30～17:00

*金曜日は20:00まで開館

*入館は各閉館の30分前まで

【観覧料】【庭園のみ開館期間】

<6月16日～7月12日、9月8日～10月4日>

一般300円、大学生150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がございます。

【名品ギャラリー】

<7月14日～9月6日>

一般700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【休館日】月曜日(ただし7月20日(月・祝)、9月21日(月・祝)は開館し、7月21日(火)、9月24日(木)は休館)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより86・206・208号系統にて博物館三十三間堂下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

※「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は140円、長3封筒は110円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は140円、長3封筒は110円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL.075-525-2473(テレホンサービス)

発行日 令和8年7月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

